

【概況説明】

平成 26 年度の消費収支状況等を分析してみると、前年度に比して帰属収入に対する学生納付金の比率が若干増加したものの、補助金収入の比率がやや減少しました。支出面では帰属収入に対する人件費の比率がやや増加し、また各部門においてきめ細かい予算管理に取り組み、種々の経費節減努力を行いました。教育経費・管理経費比率ともに前年度よりやや増加しました。その結果、基本金組入れ前の帰属収支、また基本金組入れ後の消費収支において支出超過となりました。また、資金収支では次年度繰越支払資金を前年度より約 8 千万円増加させることができました。今後も学園全体で学生募集を順調に進めるとともに、より一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、次年度以降も収支比率を悪化させることなく、好転していけるよう努力していく必要があります。

また貸借対照表には負債額が計上されていますが、これは高等学校において例年適用を受けている愛知県私学振興事業財団の授業料軽減貸付金の償還に要する財源として愛知県から全額補填されるものであり、実質的には負債額ゼロのため、負債比率が極めて低く、自己資金率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態であるといえます。